

食料経済学特論演習 I (2単位)

担当者氏名 竹内重吉・菊地昌弥

◆学習・教育目標

近年、世界の食料需給はひっ迫し、フードシステムや食生活の変化など、食料を取り巻く状況は大きく変化している。この様な中、食料の安定的確保、食料安全保障、食品ロス、食品偽装、食品汚染など多くの課題への対応が求められている。本演習ではこうした課題に対し、経済学的、フードシステム論的視点から、幅広い知識を身に付け、専門的知見と論理的思考力を養うことを目標とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

食料問題 食品流通 フードシステム 食料消費
アグリビジネス マーケティング 食品安全 食育

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	フードシステムとは(第1週)	①フードシステムの基本課題の理解を深める ②食料経済学の理論を復習する ③食料消費構造の変化を食料経済学の視点から分析する ④PCを利用した初歩的分析の演習 ⑤産業組織論的視点で食品工業・外食産業の構造をみるとともに、食品流通の変化と今後について議論する ⑥食、農、環境との関わりについて理解すると共に、その分析方法を検討する ⑦食の問題と食育の意義について議論する ⑧食料消費及び食育に関する分析手法の理解及び習得 ⑨食料関連調査を想定し、調査票を作成する	本授業のねらいは、食料経済学の理論について、経済学・フードシステム論の側面から学ぶと共に、それらに関連する分析方法を受講生自らが修得出来るように、教員と学生、学生相互の論議を重視する。準備すべき事項は、レジュメの作成・該当部分の予習、さらに、常に自らの考え方を整理して、洞察力、分析力、プレゼンテーション能力を高めることが大切である。
2	食料経済の理論(第2週)		
3	食料消費構造の変化とその要因(第3～4週)		
4	食料消費関連分析演習(第5～6週)		
5	食品産業の変化(第7～8週)		
6	食と環境の関係及び食と農業の関係(第9～10週)		
7	食育の課題(第11週)		
8	食料消費・食育関連の分析方法(第12～13週)		
9	食料関連調査方法の検討(第14～15週)		

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)
 食料経済(高橋正郎)理工学社(2006年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)
 フードシステムの経済学(時子山ひろみ・荏開津典生)医歯薬出版株式会社(2008年)
 食生活と食育(上岡美保)農林統計出版(2010年)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

レポート(30%)、課題のプレゼンテーション(20%)、授業中のディスカッション(25%)、授業中の演習(25%)

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、具体的には授業時に指示する。

